

真宗大谷派 慈雲山 瑞蓮寺

慈雲会

〒604-8214

京都市中京区新町通蛸薬師下る

百足屋町375番地

TEL/FAX (075)221-4616

zuirenji@hotmail.com

http://www.zuirenji.net/

SinsyuuOotaniha

JiunzanZuirenji

Jiunkai



慈雲

号泣 白言 世尊  
我宿何罪  
生此 惡子

号泣ごうきゅうして仏に向かいて白もうして言もうさく、「世尊、

我、宿何むかしの罪ありてか、この惡子を生ずる。

【『觀經』の言葉】

前回は、韋提希夫人が目の前のお釈迦さまを見て、まだ身に着けていた装飾品をみずからかなぐり捨てて身をその前に投げ出したところまで見えました。

今月は、夫人が悶絶号泣する様子から始まります。ひとしきり泣いた後、韋提希夫人は身の威儀を整えお釈迦さまに向かって尋ねます。「私は昔何の罪があつてこのような惡子アジャセを生んだのでしょうか。」自らは自覚していかないけれども何かしらわざわい、咎があつてこの子と母子となつたのではありません。どうぞその理由を教えてくださいというのです。

その裏には私は何も罪を犯していないのにといい下心が隠れています。

今月は

宣説大乘無上法

証歡喜地生安樂

顯示難行陸路苦

信樂易行水道樂

の四句を学びます。

「大乘無上の法を宣説し、歡喜地を証して、安樂に生ぜん」と。難行の陸路、苦しきことを顯示して、易行の水道、樂しきことを信樂せしむ。」と読みます。前回に続き龍樹菩薩のお徳を讃えたところです。まず1句目ですが、「大乘」というのは大乘仏教の事で大きな乗り物と譬えられます。私たち衆生を一人残らず迷い苦しむ多き此岸から安らぎ樂しみ多き彼岸へ渡してくれる大きな乗り物です。親鸞聖人は「難度海を度する大船」とほめておられます。また大乘仏教はこの上ない教えという事で「無上」の教えでもあります。龍樹はそのような大乘無上の法を宣べ説かれたのです。

次に2句目の「証歡喜地生安樂」を見てみましょう。「歡喜地」とは菩薩が修行する際の段階のひとつですが、その段階が五十二あるといわれます。歡喜地はそのうち下から四十一番目の位なのですが、その歡喜地の証を得て、安樂に生ずるというのです。安樂とは極樂浄土のことです。ここは一応菩薩の修行の段階について述べられているので、凡夫である私たちにはあまり関係ないように思われます。しかし親鸞聖人は「しかれば眞実の行信を獲れば、心に歡喜多きがゆえに、これを「歡喜地」と名づく。」と言われています。歡喜はよろこびという事ですから、凡夫の私たちでも阿弥陀さまの本願に出会えば心に喜びが湧きますから歡喜地を証するのと等しいことであるといわれているのです。何ひとつ仏道修行などしない私たちでも、信心を得て喜べば、菩薩方が修行してやつとたどり着ける位と同じご利益を得られるのです。またその時、我知らず極樂浄土に生まれる身となるといわれるのです。

次に3, 4句目ですがこの2句は対句になっています。龍樹は仏教を難行と易行

とに分けられます。難行は聖道門自力の教えのことを指し、易行は浄土門他力の教えを指します。私たちの浄土眞宗や浄土宗は易行の教えの方に入ります。一応の意味は、難行道である聖道門仏教（禪宗など）は、陸路を歩いて行くようなものであり、それは苦しい道である。それに比べて易行道である浄土門の仏教は、船に乗って水路を行くようなものだから樂であるというような意味です。しかしこの2句の言葉をよくよく味わってみますともう少し深い意味があるようです。私たちの日頃の生き方は自分の考えを良しとしており、それは苦しいものでありましょう。まさに険しい陸路を歩いているようです。しかし、仏法を聞いていこううちに、ふつとそのような自分でも何かしら大きなものに支えられていることを感じる場合があります。その時に自ら選んで苦しい陸路を歩いていくことに気づき、それと同時にそのままの私が必要な船に乗って悠々と進んでいる自分を発見することができます。そこを「信樂易行水道樂」といわれているのです。

## 【誕生児初参り式】

ご報告が遅くなりましたが、過日四月二十二日に誕生児初参り式が執り行われました。

初めてお寺にお参りする儀式で、三名様のお子さんにご参加頂きました。

今回、瑞蓮寺としては初めてで、多少の不手際等もありましたが、法要は厳かに執り行われ、ご参加頂いたお子さんにも楽しんで頂けたと思います。

その時の様子を写真に収めましたので、披露させて頂きます。

また、来年も執り行いたいと思いますので、ご参加下さい。



## 【帰敬式のご案内】

今年も報恩講（十一月十二日）のお勤めの後で希望者による帰敬式を執り行います。これは「おかみそり」ともいい、私たちが法名を授かる儀式です。

法名と戒名は違い、真宗門徒は法名を授かります。

法名は亡くなった時に付ける名前と思われている方が多いようですが、実は生きている間に授かるものなのです。

帰敬式で男性は「釋○○」、女性は「釋尼○○」という法名を授かります。そのことは、お釋迦さまの名を一字戴き、**仏・法・僧**の三宝に帰依し「私はお釋迦さまの教えを聞き、人生を意義あるものとして生きていきます」という誓いの名告りなのでもあります。

ぜひこの機会に帰敬式を受けて法名を授かり、真宗門徒としての人生を歩んでいただきたいと思います。

詳しくは、瑞蓮寺までお尋ねください。

【お彼岸のお知らせ】

九月二十三日（土・祝）

秋の彼岸会法要を勤修します  
午後一時より納骨堂を開きます

二時 お勤め

三時 法話 高島 大史氏

（真宗大谷派 専光寺

大阪市生野区）

四時 お齋

【お磨きのお知らせ】

彼岸会法要に先立ち、仏具のお磨きを  
します。皆様ふるってご参加下さい。

九月十五日（金）午前九時より

【瑞蓮寺 同朋の会】

お寺を離れて、少しお出かけをするこ  
とになりました。行き先は男山・石清水  
八幡宮です。皆さんよくご存じと思いま  
すが、昨年国宝に指定されました。

お寺と神社？仏様と神様？疑問を懐か  
れる方も多いと思いますが、真宗はその

ようなことは気にしません。良いものは  
良い、学ぶべきところは学びながらお念  
仏の心に触れていけるのです。

その後、吉兆・松花堂にて昼食を頂きま  
す。

参加ご希望の方は九月二十五日（月）ま  
でに、瑞蓮寺へお申し込み下さい。

日時 十月七日（土）

十時 京阪 八幡市駅集合

会費 三千元（昼食代）

※現地までの交通費と男山ケーブル（往  
復四百円）代は個人負担

・今後の予定

十一月二十八日（火）詳細後日お知らせ

東本願寺 報恩講団体参拝

十二月九日（土）

第三回写真コンテスト

ご好評のうちに第三回となりました写  
真コンテスト。写真の技量を問うコンテ  
ストではありません。皆さんのほのぼの  
とした日常を写真に撮ってご応募下さい。  
今年のテーマは「貴方の幸せ・私の幸せ」、  
〆切は十一月十九日（日）です。写真プリ  
ント・データ、応募形態は問いません。

質素ながら記念になる賞品も用意さ  
せて頂きます。奮ってご参加下さい。

詳しくは瑞蓮寺まで。

※写真プリントでご応募の場合、丁寧に  
扱い注意をはらいますが、展示方法等の  
関係上破損する場合がありますので、そ  
の旨ご理解の上ご応募下さい。

【編集後記】

今年二回目目の『慈雲』です。今年初  
参り式や前住・前々住の法要があり、前  
回の慈雲から半年ほど空いてしまいま  
した。楽しみにして頂いてる方から「こ  
の頃慈雲が来ません」というお叱りもい  
ただきました。皆様申し訳ございません。  
早、お盆も終わり九月。彼岸会、報恩  
講と秋も行事が多数行われます。先日は  
瑞蓮寺を会場にクラシックのコンサー  
トが行われました。多数の方がお越しに  
なられ、いつもとは違う雰囲気楽しい  
夕べとなりました。慈雲会の主催では無  
かったのですが、また、開催して頂けた  
ら良いなと思っております。では皆様季節  
の変わり目、体調を崩されぬようご自愛  
下さい。

長塩浩史